

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岩槻中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の1年国語について市平均を上回った。全体的には「知識・技能」の定着について課題が見られたが、目標値を達成できる生徒と課題のある生徒との間に個人差が大きいと考えられるため、個別に必要な支援を講じていく。ドリルパークやスタディサプリを活用して繰り返し問題に取り組んだことは、自校の平均正答率上昇につながったと考えられるため、継続して実施していく。
思考・判断・表現	「課題解決に向けて自分で考え取り組む」主体的な活動、「他者の意見を取り入れ、自分の考えを深めたり、広げたりする」対話的な学びについての肯定的な回答は90％近い値ではあるが、「学習内容について見直し、次につなげることができる」の肯定的な回答は80％程度に留まっている。今後、教師が生徒の考えたプロセスを把握し、生徒自身が自分の考えに説得力がもてるような授業改善に努めていく。
主体的に学習に取り組む態度	「主体的・対話的で深い学び」の質問項目について、肯定的な回答がどの項目も80％近い数値であった。今後より一層「主体的・対話的で深い学び」に取り組む生徒を増やす授業を展開していく。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」の質問項目について、自校の肯定的な回答は53％であるため、R6年度は肯定的な回答が+3pt向上できるよう、学校で学んだことを家庭学習につなげる手立てを講じていく。

① 目 標 ・ 策			
	目 標		策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査の自校結果より、国語、数学の「知識・技能」において2p t 向上させる。	⇒	ドリルパーク、スタディサプリを活用し、繰り返し問題に取り組む機会を設定する。 R5全国学力学習状況調査の問題を、R6年2月末に授業で取り扱う。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査の自校結果より、国語、数学の「思考・判断・表現」において2p t 向上させる。	⇒	記述による解答を求める課題を設定し、思考方法や表現方法について学習する活動を行う。 R5全国学力学習状況調査の問題を、R6年2月末に授業で取り扱う。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査及びR4年度市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問において、肯定的な回答の割合を80％以上にする。	⇒	全ての教科授業において、自ら考え、自ら取り組む課題による学習活動を年間の計画に位置付ける。また、学習の理解度や学習の方法を振り返る時間を設定する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「知識・技能」の平均正答率は、1年国語で市平均を上回った。R4年度さいたま市学習状況調査の自校正答率と比較すると国語では1年: +2pt、2年: +4pt、数学では1年: +7pt、2年: +1ptと値が上昇した。今後も繰り返し学ぶ機会を設定し、学習内容の定着を図る。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「思考・判断・表現」の平均正答率は、市平均を下回った。R4年度さいたま市学習状況調査の自校正答率と比較すると、国語では1年: +1pt、2年: +3pt、数学では1年: +2pt、2年: +1ptと値が上昇した。生活に関する調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」の質問項目について肯定的な回答が1年、2年とも90％近い値であった。今後も話し合い活動が「思考・判断・表現」の習得につながる授業を継続して展開していく。	B
主体的に学習に取り組む態度	「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問項目について、R5年度全国学力・学習状況調査(3年)、R5年度さいたま市学習状況調査(1、2年)の肯定的な回答が80％以上であった。R5年度さいたま市学習状況調査「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができたか」の質問項目について、肯定的な回答の自校平均が79.3％であった。今後も継続して主体的に学習に取り組もうとする意識を高める活動を行い授業改善を図る。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	「文脈に即して漢字を正しく書くことができるか」(国語)「数と数式の乗法の計算ができるかどうか」(数学)については課題が見られた。授業の中で繰り返し問題に取り組む機会を設定し、基礎学力の定着を図る。
思考・判断・表現	「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうか」(国語)に課題が見られた。授業では、記述による解答を求める課題を設定し、思考力・判断力・表現力を育成する学習活動に重点をおいて指導を行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問において肯定的な回答が80％を超えているので、今後も自ら取り組む課題による学習活動を継続していく。

- 結果提供(7月)
①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	国語の「知識・技能」についての正答率は、R5年度さいたま市学習状況調査市平均より+2ptであった。「思考・判断・表現」についての正答率は、R5年度さいたま市学習状況調査市平均に近い値であった。数学の「知識・技能」「思考・判断・表現」についての正答率は、R5年度さいたま市学習状況調査市平均に近い正答率であった。既習を確認したり繰り返し学習させたりして基礎の定着を図り、生徒が「思考・判断・表現」が身に付くよう授業改善に努めていく。
中2	国語・数学の「知識・技能」「思考・判断・表現」についての正答率は、R5年度さいたま市学習状況調査市平均より下回った。「知識・技能」については、系統性でつながりのある内容について、既習を確認したり繰り返し学習させたりして、さらなる基礎学力の定着を図る。「思考・判断・表現」については、教科横断的に複数の情報から必要な情報を見つける、話し合い活動を通して解決策を見いだす活動に取り組む。
中3	生活に関する調査「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問項目について肯定的な回答が91.2％と高い値であり、R4年度の肯定的な回答73.6％より17％上昇した。生活に関する調査「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができたか」の質問項目について肯定的な回答が80.3％であり、R4年度の肯定的な回答より8％上昇した。R4年度の結果と比較すると値が上昇しており、生徒が主体的に学習に取り組んでいると考える。

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岩槻中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には「知識・技能」の定着について課題が見られたが、目標値を達成できる生徒と課題のある生徒との間に個人差が大きいと考えられるため、個別に必要な支援を講じていく。ドリルパークやスタディサブリを活用して繰り返し問題に取り組んだことは、生徒の学習に向かう意欲や予習・復習の習慣化につながっていると考えられる。学習から学んだことが、結果につながるよう授業改善・工夫に継続して取り組んでいく。
思考・判断・表現	「課題解決に向けて自分で考え自分から取り組む」主体的な活動、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする」対話的な学びについての肯定的な回答は90%近い値ではあるが、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次につなげることができる」の肯定的な回答は85%程度に留まっている。今後、教師が生徒の考えたプロセスを把握し、生徒自身が自分の考えに説得力がもてるような授業改善に努めていく。

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 漢字書き取りや基本的な計算など「知識・技能」について定着している生徒と課題のある生徒との間に個人差が大きい。 <指導上の課題> 個々にあった学習方法や習得した「知識・技能」を活用する学習活動が設定しにくい。	⇒	「スタディサブリ」や「ドリルパーク」を活用し、国語・数学に関する漢字や計算などの基本的な事項を繰り返し学習する機会を設定する。【授業開始時、家庭学習】また、これらの活動を通して、予習と復習を習慣化し、見直しをもって授業に取り組めるようにする。【さいたま市学習状況調査「学習内容について見直し、次につなげることができる」の質問項目について肯定的な回答の割合が80%以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 学習に対して意欲的ではあるが、自分の考えを伝える、根拠を明確にして書くことに課題がある。 <指導上の課題> 思考力・判断力・表現力を育成に重点をおいた学習活動が少ない。	⇒	各教科や「STEAMS TIME」における生徒の探究的な活動を通して、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。また「Teams」や「ミライシード」などを活用して思考から表現までの過程を可視化し意見の共有や協働作業を行う。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が85%以上】。

<小6・中3>(4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果について(分析・考察)
知識・技能	B	スタディサブリを活用した基本的な事項を繰り返し学習する機会を設定し、学習習慣の定着を図り、気基礎学力向上に努めた。また、定期テスト期間外においても、学習計画表に取り組ませることで、学習意欲の向上や予習・復習の習慣化につなげることができた。さいたま市学習状況調査「学習内容について見直し、次につなげることができる」の質問項目について肯定的な回答の割合が86.7%を得ることができた。さらに学習意欲が高まる授業を展開する。
思考・判断・表現	B	各教科や「STEAMS TIME」における生徒の探究的な活動を行い、思考力・判断力・表現力を身に付けさせながら授業に取り組んだ。また、「Teams」や「ミライシード」などを活用して思考から表現までの過程を可視化し意見の共有や協働作業を行い、プレゼンテーション能力や発表力を高める授業を行った。R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が93.8%を得ることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の特に「短歌に用いられる表現の技法について理解しているかどうかをみる」問題に課題がみられた。また、適切な解答を選択肢から選ぶ問題に課題がみられた。授業の中で、適切な解答を選択した理由を説明できる力、与えられた情報を整理して適切な解答を選択できる力を身に付ける授業を展開し、課題の改善に取り組んでいく。 数学の「数と式」「データの活用」の領域について課題がみられた。特に「基本的な計算や複数データの分布からの比較」の理解が不十分であった。授業の中で、基礎的な問題を繰り返し行い基礎学力を定着させたいと考える。	
思考・判断・表現	国語の「読むこと」に関する事項において、特に「本文中の図の役割を説明した問題」「目的に応じて必要な情報に着目して要約する問題」課題がみられた。記述式の問題の無回答率が高くなっている。授業の中で、各自で考えた内容について意見交換し、話し合い活動を通して内容をまとめ発表する活動を充実させる必要があると考える。 数学の「データの活用」「図形」の領域について課題がみられた。「複数の集団データの傾向を比較・判断し数学的に表現すること」や「筋道を立てて考え証明すること」の理解が不十分のため無回答率も高かった。授業の中で、目的に応じてデータを収集・分析し、その傾向を読み取って考察し話し合う活動に取り組んでいく。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(児童生徒の実態把握)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「スタディサブリ」や「ドリルパーク」を活用し、国語・数学に関する漢字や計算などに反復・習熟に取り組んでいる。	変更なし
思考・判断・表現	B	生徒が思考した考えやプロセスを「Teams」や「ミライシード」などを活用して共有・意見交換を行っている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	理科の物質や物体の特徴や性質について問う問題、実験の目的を理解し説明する問題について、市の正答率を上回ることができた。実物に触れることや実験などの体験的な活動から得た知識は身に付いている。国語の文語のきまりを理解しているか、文脈に即して漢字を使うことができるかを問う問題や社会の資料から適切な情報を読み取る問題など、基礎学力を必要とする問題に課題がみられた。授業の中で、既習の確認や繰り返し学習をさせることで、基礎学力の定着を図る。また、生徒が知識・技能を習得できるよう授業改善に努めていく。	
思考・判断・表現	社会の気候に関連する住居から生活の特色や自然の条件との関係を問う問題、理科の前線の通過に伴う天気の変化を問う問題について市の正答率を上回ることができた。根拠や知識に基づいて資料から正しい解答を選択できる力は身に付いている。国語の表現の効果について根拠を明確にして考える問題や数学の数量の大小関係や事象に即して解釈する問題など、与えられた情報を整理して、既習したことや学習した知識と関連させて自分の考えを示す問題に課題がみられた。今後も考えを整理し、言葉で説明する活動に重きをおいた授業を展開する。また、話し合い活動を通して、他者と協議をして解決策を見出す活動を行い、思考力・判断力・表現力を高めたい。	